

宇田川 勝 教授 退職記念号によせて

この3月、経営学部の宇田川勝教授が定年退職を迎えられました。法政大学経営学会では、長年にわたって法政大学の研究、教育等に貢献された宇田川先生を讃えて、『経営志林』の月号を退職記念号として刊行することとしました。

宇田川勝先生は、1944年に千葉県に生まれ、1968年に法政大学経営学部経営学科をご卒業後、同大学院社会科学研究科修士課程・博士課程で学ばれた後、1972年4月に法政大学経営学部研究助手として赴任されました。その後、経営学部専任講師・助教授を経て、1984年4月に教授になりました。1995年4月から1997年3月まで法政大学経営学部長を、そして、2006年4月から2008年3月まで法政大学イノベーションマネジメント研究センター所長をつとめました。

教育面では、経営学部で「日本経営史」等の大規模講義を、大学院では社会人MBAと研究者養成の両方で「企業家史」等の講義を担当されると共に、修士と博士の論文指導も担当されました。先生の真摯で優れた研究指導の賜物で、その後、大学教員になり、学会で活躍している研究者が数多く輩出されました。また、定期的に、学部ゼミナールの卒業生と現役生を交えたOB会を開く一方、大学院修了生とも長年研究会を開催し、共同研究を続けておられます。先生のお人柄によって、教育の場や時間は在学中を超えて広がり、現在に至るまでつながっています。

研究面では、経営史の観点から日本の企業や産業に関する研究を精力的に進め、新興財閥、企業家史、自動車産業、企業の品質管理、企業間競争など幅広い研究分野で足跡を残されており、その研究成果は多くのご著書として公刊されました。また、日本水産の社史や日立製作所100年史の編纂、旧日産財閥系企業関係者の集まりへの定期的な記事連載など、アカデミックの領域を超えて現実の個別企業に関する見識を記録として残すことにも多大な貢献をされました。こうした研究面の貢献により、経営史、企業家史の研究者の間で厚い人望を持たれ、経営史学会では1997年1月から98年12月まで編集委員長を、1999年1月から2002年12月まで常任理事をつとめられました。2002年1月から現在まで、企業家研究フォーラムの理事もつとめておられます。

先生のお人柄や学識は地域社会への貢献にもつながり、2011年7月から12年6月まで浦安ロータリークラブ会長を、また2012年1月から現在まで、社会福祉法人の理事もつとめておられます。

宇田川先生は43年にわたり法政大学に奉職され、研究・教育等にご尽力くださいました。この間法政大学および経営学部の発展にかけがえのない貢献をされました。今後は法政大学を離れますが、今後とも益々のご活躍ご発展を祈念し、退職記念号刊行の辞とさせていただきます。

2015年4月

法政大学経営学部長

竹内 淑 恵